土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　　査　　名　一般国道317号交通安全施設等整備事業に伴う業務委託

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　河川　構造物基礎

ボーリング名	BorNo.R4-Br-1	調査位置	広島県尾道市因島中庄町　地内	北緯	34° 20′ 00.3169″
発注機関	広島県東部建設事務所　三原支所	調査期間	令和4年10月24日～ 令和4年10月26日	東経	133° 10′ 38.1996″
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 3.34m	角度	180° 上 90° 下 0° / 0°	方向	0°北 90°東 180°南 270°西
総削孔長	7.00m	地盤勾配	0° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦地下工機　DO-C型 / エンジン：ヤンマー　NF-110EK型 / ポンプ：東邦地下工機BG-3C

標尺(m)	標高(m)	深度(m)	現場土質名(模様)	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位／測定月日	深度—N値図 (0 10 20 30 40 50 60)	N値	深度(m)	100mm毎の打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量	試料採取 深度(m)	試料番号	採取方法	室内試験	削孔月日
1				礫混り砂質土		黄褐	rd1		護岸盛土 ・最上部以下0.02mまでAs舗装 ・φ20-40mm程度の割栗石状の粗礫が混入 ・砂は細-中粒砂、細粒分及びφ2-10mm程度の鉱物片ないし細礫を伴い粒度不均一 ・場所的に捨Co、土嚢等の建設廃材が点在 ・含水比は低-中位、GL-2.20m以深で高い ・GL-0.40m付近、φ40cm以上のCo殻を挟む ・GL-0.60m以深から、やや密に礫が混入する下部護岸盛土	10/26 2.20		3	1.15	1	1	1	3/300						
2													1.45											10/24
	0.84	2.50										4	2.15	1	2	1	4/300			2.00	P1-2	⊖	含水 密度 粒度	
3				礫混り砂質土		灰褐	rd3						2.45							2.45				
	-0.06	3.40										22	3.15	4	5	13	22/300			3.00	P1-3	⊖	含水 密度 粒度	
				砂質泥岩		暗灰			崩積土 ・礫はφ20-40mm程度の粗礫が混入 ・基質部は細粒分やや優勢を示す中間土 ・砂分は細-中粒砂、やや含水	10/26 3.30			3.45							3.45				
4	-0.56	3.90										50以上	4.15	20	30		50/180	180						
				砂質泥岩		暗灰			砂質泥岩風化土(DM) ・砂岩優勢を示す ・風化変質著しく軟質化、土柱状を呈す				4.33		80									
	-1.46	4.80										50以上	5.00	貫入不能			50/0	0						
5																								
6				砂質泥岩		暗黄			砂質泥岩強風化岩(DH) ・泥岩優勢で砂岩を層状に挟む ・採取試料はコア形を残す土柱状-礫状 ・GL-4.30-4.70m間、黒色泥岩の破砕帯															
7	-3.66	7.00							砂質泥岩弱風化岩(CL) ・泥岩優勢互層で縞状に砂岩を挟む ・採取試料は短柱状主体、石英細脈を伴う ・層理面に斜交-平行な亀裂を認める ・GL-5.80-6.50m間、砂岩(白色)優勢部の破砕帯であり採取試料は礫-岩片状を呈す															10/25
8																								
9																								
10																								
11																								
12																								